

# 有用海藻人工採苗及び配布記録

山田 嘉暢・桐原 慎二

## 目 的

当所で開発され、実用化された海藻類の人工採苗や養殖技術を県内の市町村、漁協、企業等に技術移転を進めるために、技術指導や研修養殖活動をバックアップする。

## 採 苗 方 法

### 1 スジメ

- ① 平成18年6月9日に階上町道仏地先で子嚢斑を形成したスジメ成熟藻体を採取し(社)栽培漁業振興協会の飼育水槽に收容した。6月12日に藻体を取り揚げ、ろ過海水で洗浄した後、冷暗所に2日保存した。6月14日に当所に運搬し、15℃で遊走子を放出させ、50mのクレモナ糸を巻いた採苗器24枠(計1200m)に付着させた後、18℃、40-60 $\mu$ mol/m<sup>2</sup>/s、中日(12時間明期:12時間暗期)条件下でPESI液を添加して概ね7日に1回の割合で水換えをし、約2週間、配偶体の培養を開始した。その後、スジメ種苗を夏眠させるため20℃、暗黒下で種糸を保管培養した。9月下旬以降15℃、40-60 $\mu$ mol/m<sup>2</sup>/s、短日(10時間明期:14時間暗期)条件下に移し、PESI液を添加して概ね7日に1回の割合で水換えをし、種苗配布時期まで管理した。
- ② 上記と同じスジメ成熟藻体を6月13日に八戸水産高校栽培漁業実習場に運搬し、水産高校の福嶋教諭及び海洋生産科栽培漁業コースの生徒たちにスジメの概要を説明し、人工採苗の指導を行った。スジメ母藻を15℃の滅菌海水中に入れて遊走子を放出させ、50mのクレモナ糸を巻いた採苗器4枠(計200m)を浸漬した。翌日、種糸をPESI液の入った水槽へ移し、配偶体の培養を開始した。夏眠までの3週間は、水産高校で管理した。7月5日にスジメ種苗を夏眠させるため、200ℓの黒色パンライト水槽に殺菌海水を満たし、種糸を入れて遮光用のネットをかぶせた。9月20日に夏眠させていた種糸を15℃のろ過海水をかけ流した5tFRP水槽にPESI液を添加して培養を開始した。10月19日に種糸を栽培漁業実習場から当所に運搬し、種苗配布時期まで管理した。

### 2 エゴノリ

平成18年6月15日および6月19日に外ヶ浜町三尻六条間地先でエゴノリ藻体を採取して、当所に運搬し20℃、中日(12時間明期:12時間暗期)条件下でPESI液を添加し、概ね7日に1回の割合で水換えをして培養した。6月29日から果胞子の自然落下が確認され、7月11日まで果胞子をマイクロプレートに回収した。回収した果胞子は雌雄が判別した段階で、雄は20mlのバイアル瓶に、雌は生長に応じてバイアル瓶から500mlの丸底フラスコへと分けて12月まで管理した。12月中旬に雌雄のエゴノリを受精させて、嚢果が形成されるまで培養した。

### 3 ガゴメ

平成18年12月1日に風間浦村蛇浦地先で2年ガゴメ藻体を入手して、所内に運搬し、12月4日に遊走子

を放出させ、50mのクレモナ糸を巻いた採苗器12枠（計600m）に付着させた後、7℃、40-60 $\mu$ mol/m<sup>2</sup>/s、短日（9時間明期：15時間暗期）条件下でPESI液を添加して概ね7日に1回の割合で水換えをし、通気培養した。

## 配布記録

### 1 スジメ

平成18年10月27日に当所からスジメ種苗を運搬し、八戸鮫浦漁協の養殖試験参加者7名に800m、11月10日に八戸南浜漁協の5地区の代表に計310m、11月11日に階上漁協に100mをそれぞれ提供した。

### 2 エゴノリ

平成18年11月20日にエゴノリ（約100g）と雄のエゴノリ藻体を深浦町海藻養殖施設に配布した。平成19年1月25日に果胞子のついた藻体をスポアールバッグに入れ、深浦町北金ヶ沢地先の多機能静穏域内にある投石漁場に投入した。また囊果が形成されたエゴノリ約500gを、平成19年1月5日に外ヶ浜町漁協に250g提供した。また同漁協は三厩六条間地先からカルポスポアールバッグに入れてホンダワラ漁場へ投入した。

### 3 ガゴメ

平成19年2月16日に尻屋漁協漁業研究会に100mを提供した。また同日に風間浦村あわび増殖センターにガゴメ種苗200mを運搬し、センター職員から蛇浦漁協に提供した。

2月23日にスジメ種糸200mを4mノレン30本に挟み込み、石持漁協に提供した。石持漁協では3月2日に石持地先からコンブ養殖施設に冲出しした。